早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	XU Yinghan　　（　じょ　おうかん　）
所属・資格（※学生の場合は課程・学年を記載）	人間科学研究科　修士１年
発表年月 または事業開催年月	２０２１年　１１月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 62 回日本社会医学会総会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	徐 桜晗、清原 聖羅、扇原 淳
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	大学生の子宮頸がん関連知識とヘルスリテラシーとの関連

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【背景】子宮頸がんは女性に特有のがんの一つであり、日本では、年間約１万人の女性が子宮頸がんに罹患し、約 2800 人が子宮頸がんによって死亡している。近年の特徴として、若い年齢層での罹患率が増加している。子宮頸がんの一次予防として、HPV ワクチンは既に多くの国で定期接種されているが、日本での接種率が低い。接種率が低い理由の一つとして、ヘルスリテラシーの関連が指摘されている。ヘルスリテラシーとは、「健康情報にアクセス、理解、評価、適用する能力」と定義され、運動や喫煙などの保健行動と関連があると報告があるが、HPV ワクチン接種や HPV 関連知識とヘルスリテラシーの関連について検討したものはあまりない。本研究の目的は、大学生の HPV 関連知識とヘルスリテラシーとの関連を明らかにすることである。

【対象・方法】日本の大学生および大学院生の男女を対象にして 2020 年 10 月 30 日から 2020 年 11 月 9 日に Web アンケートを実施した。質問項目は，基本属性，HPV 関連知識，J-HLS-EU-Q47 尺度(HL)で構成した。分析には R 言語 1.0.44 を用いて、有意水準を 5%未満とした、x^2 検定，t 検定，相関分析，ロジスティック回帰分析を行った。

【結果】HPV ワクチン接種理由としては、「両親からのすすめ」が最も多かった。未接種の理由としては，男女ともに「知らなかった」が約４割と最も多かった。HPV 関連知識と HL ともに、男性よりも女性、非医療系学部よりも医療系学部の方が、統計学的に有意に平均得点が高かった。HPV 関連知識と HPV 学習経験との関連について、性、年齢、学部、学年で調整した多重ロジステックモデルによる分析を行った結果、HPV 学習経験無群よりも HPV 学習経験有群の方が、統計学的に有意に HPV 関連知識得点高群の割合が高かった(OR:2.33，95%CI:1.30-4.24)。

【考察】未接種の理由から見ると、今後接種を推進する際には、情報提供の方法について検討する必要があると考えられた。HPV 関連知識と HPV 学習経験との関連の分析から、HPV ワクチン接種を含む HPV 関連知識の向上には HPV 関連学習が重要であることが示唆された。また，HPV ワクチン接種率の向上を含む子宮頸がん予防と関連させるためには，小中高で行われる保健学習と 関連させた体系的なプログラム開発と合わせて，行政と民間が連携したソーシャルインパクトボンドの仕組みを取り入れる等，新たな取り組みとその科学的検証が求められる.

https://jssm62.jp/wp-content/uploads/2021/06/program.pdf

※無断転載禁止